

1970 高瀬弘一郎 (1936-) / キリシタン宣教師の軍事計画 下

* 僭越ながら、若干、纏めた。多々、誤認、誤解もあると思う。

○ 宣教師の内部文書

- ・ローマ、イエズス会文書館
- ・セビーリヤ、インド総合文書館

この論文はネットに公開されているので、各自、原文を熟読して戴きたい。

1494.6.7 スペイン国王フェルナンド 2 世とポルトガル国王ジョアン 2 世の間で交わされたトルデシリャス条約

ローマ教皇によって正当化されて、ポルトガルとスペインは、世界を二分割して、征服し、領有する

1549 ザビエル (1506-1552) 鹿児島

1551 ザビエル、京都に赴くが戦乱のため、天皇、將軍も権威がないことを悟り、離日
広東沖のサンショアン島で病死

1569.7.8 マルティン・デ・ラーダ (アウグスチノ会) セブー発 中国を征服する計画

1576 フィリピン総督発 スペイン国王、メキシコ副王宛 中国に対して武力征服する献策

1577.4.29 スペイン国王の返書 目下のところ適当でない

1580.4.24 フランシスコ・デ・オルテガ ロンキーリョ・デ・ペニャロサ宛 (フィリピン総督) 友好関係を結び、布教活動、貿易基地を割譲させる

1581.04 フェリペ二世、スペイン国王に即位し、ポルトガルを 1640 まで併合した

1582.6.24 ドン・ジョアン・デ・アルメイダ フィリピン総督宛

中国では赤毛の人間が遠方から来て国を奪うという予言が行われている。

布教を行い、占領地域を拡大する 広東市を占領し、要塞を築く

1592.2.25 長崎 ペドロ・デ・ラ・クルス (1559-1606) イエズス会総会長宛

結論は、スペインが日本を武力征服すべき

1 日本教会を建設し、維持し、そして統治する上の危険について

1) 改宗は人為的

・領主は、ポルトガル貿易で利益をえたいので、改宗する

・領主の改宗で家臣が改宗する

2) 改宗が薄弱。確固として信仰がない。

3) 殿は、キリスト教の婚姻の法を守れない

4) 道徳の掟がない 男色、間引、墮胎などが罰せられることなく行われている

5) 打ち続く戦争

6) 戦争以外でも、諸事情が変動しやすい

7) 迫害が勃発するかも知れない

2 日本教界に対する幾つかの救済策について

- 1) 貿易と共に説教が許された
- 2) スペイン人が日本に貿易の基地をえることは有益
- 3) カトリック国王による日本を武力征服は有効で可能である
 - ・日本は海軍力が弱い、兵器が不足している
 - ・シモでは、領主間で争っているの、スペインと連合するだろう
 - ・金銭的に貧しい日本人に対して、些少な援助でも充分
 - ・家臣は隷属意識が強く、スペインと連合できる
 - ・スペイン統治で自由になり、喜んでスペインの統治下となる
 - ・改宗しない殿は、貿易に参加させない

3 日本国内に防備を固めたスペイン人の都市を建設することの利点について

- ・日本とヌエバ・エスパーニャの貿易、フィリピンを経由せずに行える
- ・スペイン人との交流と結びつきが出来てくる
- ・キリスト教的な統治を経験することになる
- ・聖祭式で信仰を強固なものにする
- ・慈悲、救済を行うことが出来る（貧者、孤児、捕虜、被迫害者）
- ・聖職者の安住の場所を確保できる
- ・大勢の修道士が渡来できる
- ・大勢の修道士を維持する上で利点がある。
- ・イエズス会が厄介な負担から開放される
- ・スペイン人が確かな居留地を所有すれば、イエズス会以外の修道士の渡来を恐れなくなる
- ・スペイン人は、その征服事業、そして中国征服事業のため勇敢な日本の兵隊を調達できる

4 同じくポルトガル人の都市を建設することの利点について

- ・日本人は、ポルトガル人が、征服の意図を持たず、マカオに居留していると思込んでいる
- ・長崎、ナウ船内では権力を持っているが、船外では全く権力がない
- ・反乱が頻繁に起きる。長崎を奪い取ろうとしている殿は大勢いる。
- ・長崎の居住費は、他国の生活費より安い
- ・長崎から、マカオを経ずにインドに渡航できる
- ・ポルトガルとスペインは、別々の所に基地を設けることが最良の策。
ポルトガルはシモ、スペインは関東、東北など
ポルトガルが基地を得るためには、貿易か武力。武力が良い
日本人は、徐々に軍備を増強し、フスタ船、ガレーラ船、大砲を備えるようになる
四国を基地とするため、軍事力を行使し、海上から包囲して支配する

1596 ガレオン船サン・フェリペ号、土佐沖に座礁

水先案内人は、布教をしてキリスト教徒にし、連合して外国を征服する

1613.1.04 ペドロ・モレホン イエズス会総長宛

フィリピン、ヌエバ・エスパーニャに対してもキリスト教を布教し、国土を奪う

1620 不干齋ファビアン／破提字子（ハデウス）キリシタンの布教は国土を奪う目的

1621.3.15 マテウス・デ・コーロス（イエズス会日本管区長）宛 総会長宛
神の教えは、諸國を征服するために造り出された手段

オランダ、イギリスは、ポルトガル、スペインが各地を軍事征服してきたと宣伝工作

デマルカシオン

ワリニャーノ（1539-1606）

1582.12.14 フィリピン総督宛 中国征服は無謀である

日本の布教は重要

日本は征服の対象として不向き しかし中国征服の前提として有効

武力行使に反対でコエリョ（1527-1590）を解任した。実際、武力で日本を征服できない。

1582（天正 10）、ヴァリニャーノは九州三侯の少年四人をヨーロッパへ派遣した。

ヴァリニャーノ（1539-1606）はインドで留まり、日本語に通じたメスキータが使節の指導にあった。使節は、リスボア、マドリッド、ローマなど各地で熱狂な歓迎を受けた。

1583.1.30 ペドロ・ゴメス（イエズス会）フィリピン総督宛

中国人はスペイン人を恐れている。ショウ州人達がスペイン人は征服者である。

中国の国土を征服するための間者である。

1583.6.18 ドミンゴ・デ・サラサール スペイン国王宛 中国に対する武力征服は正当

かの野蛮人どもが、説教者を殺害したり、害を加えないようにしなければ、布教は危険

野蛮人共はスペイン人を知らず、僅かな鉄炮隊で何百万人もの中国人を滅ぼせる

1583.6.20 ディエゴ・ゴンキーリョ（フィリピン総督）スペイン国王宛

8000 人のスペイン兵と 10-12 艘のガレオン船の艦隊で充分、中国を征服できる

1584.6.25 カブラル マカオ スペイン国王宛 中国征服を勧告

カブラルの布教政策は誤りとして、ヴァリニャーノがカブラルを解任

1 中国の貴族は逸楽に耽り、柔弱

2 中国の国民は武装していない

3 中国に青銅の弾丸はない

4 中国国民は未信者（キリスト教徒でない）

5 司直のような高級官吏がいて、政治が過酷のため、謀叛が多くなっている

フィリピン、ペルー、メキシコそして日本のキリスト教徒、マカオの原住民 3000 人

1584.6.27 サンチェス マカオ スペイン国王宛 中国への軍事行動

1584.7.,5 サンチェス マカオ コエリョ宛（日本準管区長） 中国征服

説教によって、中国人を改宗させることは不可能 メキシコ、ペルーと同様、武力で征服

フラガータ船（大砲を備えている） 3-4 艘でキリスト教徒の領主を支援する
ドン・アウグスティン（小西行長）（1555-1600）も武装した兵隊で戦う用意がある
日本で、6,000 人ほどの武装兵を調達できる。

1584.9.17 松浦鎮信（1549-1614） フィリピン総督宛 スペイン国王の命令に従う
*しげのぶ 松浦法印 平戸のキリシタン大名

1586 松浦氏（平戸）の家臣 マニラで、スペインの要請次第、兵隊を提供できる

1587（天正 15.06.19-20）博多で発令、キリスト教宣教師を国外退去を命令（バテレン追放令）

1588.3.0 フランシスコ・マンリーケ（アウグスチノ会）発 スペイン国王宛
キリスト教徒の王は四人*だが、10 万人以上の兵を出動できる *実際はもっと大勢
日本の兵隊は勇敢で大胆、残忍、中国を占領することは容易である。

- ・大友宗麟（1530-1587）
- ・大村純忠（1533-1587）
- ・高山右近（1552-1615）
- ・小西行長（1558-1600）

1590（天正 18）、インド副王の資格で長崎へ帰国する。

1591（天正 19）、聚楽第で、秀吉に謁した。千々石ミゲルは棄教し、他の三名も司祭になったが、病死、殉死した。

1596（慶長 1）土佐の浦戸にスペイン船（サン・フェリペ号）が漂着。その乗組員の水先案内人は、世界地図を示して、スペインが広大な国土を有している。宣教師を遣わし、布教事業とともに制服事業を進めると述べた。大坂のサンフランシスコ会の宣教師、日本人信徒が捕らえられ、長崎に送られて処刑された。

（雁註）新井白石は、シドッチを尋問して、キリスト教の布教が他国を侵略するための下工作であるという言説を否定した。しかし、ポルトガル、スペインは実際に鉄砲で、他国を侵略し、殺戮、奴隷売買を行ってきた。その後、イギリス、フランス、オランダなども、非人道的な悪行を踏襲してきた。今日、各地の貧困、紛争は、その結果、生み出されたものである。